

## 〈解答〉

- ① 1 イ  
2 なさそうに  
3 ア  
4 イ  
5 鳩を両掌に

配点 各2点 10点満点

## 〈解説〉

- ① 1 「身も蓋もない」は、隠す部分がまったくなく、すべてをさらけだしている状態が表現されており、「露骨」「直接的すぎる」「味気ない」といった意味が出てくる。ア「臭い物に蓋をする」は「悪事や失敗など知られると都合の悪い事柄を一時しのぎで隠そうとするたとえ」、ウ「破れ鍋に綴じ蓋」は「誰にでもびったり合う相手がいること」、または「似たもの同士が一緒になればうまくいくことのたとえ」、エ「火蓋を切る」は「戦いや競争が始まる」、「物事に着手すること」という意味。
- 2 この場合の「もう」は「もはや」「すでに」と同じ意味で、「なさそうに」の中にある形容詞「ない」に係る副詞（「なさ」は、形容詞「ない」の語幹「な」に、接尾語「さ」が付いて名詞化したもの）。「何の心残りも『もう』ない」と語順を入れかえて考えるとわかりやすい。
- 3 「脇目もふらず」は「ほかに心を奪われずに熱中するさま」を表す慣用句で、本文の場合「よそ見もせずに」という意味になる。
- 4 傍線②に「糞だらけの鳩舎の上にあぐらをかいてリーダーに眼を当てている戸石の姿」とあるが、「私」からすると、「糞だらけの鳩舎」と「リーダー」の勉強という取り合わせはとても異様であり、それでいて戸石兵吾が「英語は級でもずば抜けてよく出来た」というのだから、「自分もまたそれをまねてみようか」と思わずにはいられなかったものと推察できる。つまり、傍線②からは、異様な取り合わせに好奇心をくすぐられている「私」の心情（＝興味）と、戸石の鳩への情熱や、優秀な英語の成績に対する「私」の憧れの気持ち（＝羨望）が読み取れるのである。
- 5 傍線③の四行後にある「押しただくように捧げる」という部分に注目する。「押しただく」は「うやうやしい態度で受け取ること」、「捧げる」は「敬意を表現するために、両手で物を目より高くして持つこと」という意味で、鳩をうやうやしく思う戸石の気持ちや、鳩への敬意が表現されている。